

5/14(土) まいど！ 倫理号です。

今回の倫理しゅくろくを読んで下さい。働く喜びとは……

今週の

倫理

5月のテーマ | 信念を持つ

幸せなアホ鳥

2022. 5. 14～5. 20

1281号

コロナ禍を契機とした社会変化によって、生活様式等の多様化が加速しています。また、リモートを活用した勤務体制を敷く企業が増えるなど、職場環境や働き方も変化してきています。

効率化を図るという意味では、リモートの活用は非常に有益ではありますが、活用方法を誤ると社員のモチベーションの低下など、マイナスの影響を及ぼしかねません。

日本人の特性の一つに、しばしば「勤勉である」ことが挙げられます。内閣府の調査などを見ても、外国人の日本人に対する勤勉のイメージは未だに根強いようです。

ところが、「日本人が日本人に対して勤勉である」との印象を抱く割合は、調査を重ねるごとに下がっており、近年では四割程度まで低下しています。では、日本人の勤勉さは、遺物となってしまうのでしょうか。

世界有数の時計の技術力を誇るセイコーホールディングス株式会社は、五年前より毎年、時間価値、時間の多様性などを調査し、「セイコー時間白書」を発表しています。

二〇二一年の白書によれば、コロナ禍で増えてよかったと感じる時間の上位は、一位「趣味の時間」、二位「家族とのコミュニケーション時間」、三位「食事の時間」とプライベートな時間が上位を占めました。

それに対して、減って良かったと感じる時間は、一位「会社の飲み会・食事会の時間」、二位「通勤時間」、四位「仕事をしている時間」となり、仕事に関連する時間が上位にランキングされています。



自社の経営理念を 我が信念として働くとき 喜働の職場環境が築かれる

さらに、自分の一時間に対する価値を「価値」するという項目では、仕事や家事、勉強をするオンタイムの価値は四二五三円、オフタイムの価値は一二九九二円という値付けとなりました。その差は約九〇〇〇円で、調査開始以来、最も大きい差異となりました。調査からも、働くことに対する価値判断が低下していることが読み取れます。

倫理運動の創始者・丸山敏雄は、自著『人類の朝光』に、働きの喜びが失われる原因について、次のように述べています。

この唯一の仕事、なぜ大切と思われぬか。大切と思われぬは無知というもの。その仕事の意義を知ったら、心から喜んでその仕事を愛する、真心を傾けて力を出す、心を尽くす。そうせずにはいられぬ。

仕事の意義を見失うとは、やりがいと共に、喜びがなくなること示唆しています。会社で働く意義とは、企業の目的や経営理念、社是社訓、創業の精神など、その会社の存在意義ともいえる「本(もと)」にあります。

自分の働きによって、誰が喜び、何が良くなるのかを心に刻めば、どのような職場環境に身を置いても、やりがい感を得ることが出来るはずなのです。そのやりがい感、自ずと働く喜びへと高めてくれます。

まずは経営者が自社の理念を明確に定め、それを心に刻んで仕事に打ち込む時、その情熱は社内全体に伝わり、「喜働」の社風を築いていけるのではないのでしょうか。

自社の理念を経営者自身の信念とし職務に邁進する時、繁栄の道は拓かれるのです。